

**「摂津優品」認定商品を募集**

市・市商工会では、市内で生産・製造・加工され、摂津らしさなど一定の認定要件を満たす商品を「摂津優品（せっつすぐれもん）」として認定しています。認定されると販路開拓など支援が受けられます。

**メリットがたくさん！**

- ▼ロゴマーク（右記）が使用できる
- ▼商品PRの広報費補助や各種展示会への出展補助が受けられる
- ▼市・市商工会の共同出展イベントで商品のPRができる など



※具体的な申請方法、提出書類、認定要件などは、市ホームページをご覧ください

**募集期間** 11月16日(月)～12月15日(火)  
**応募方法** 市役所4階・産業振興課または市商工会で配布（市ホームページでも取得可）の申込書に必要事項を記入し、同課または同会へ  
**認定要件** 本社または製造拠点が摂津市内にあり、その実態が1年以上ある中小企業者が生産・製造・加工する商品（食品含む）  
 ※食品は、次のいずれかを満たすもの▽市の特産品「烏飼なす」を加工したもの（1次産品除く）▽有機栽培された原材料などを使用し、身体に優しく健康に良いもの▽環境に配慮した生産方式や取り組みで生産されたもの  
**認定基準** ▽摂津らしさ▽コンセプト▽信頼性および安全性▽独自性および新規性など  
**問合せ** 同課 ☎06(6383)1362 または同会 ☎06(6318)2800

**人権を考える市民のつどい「命の重さ～家族の絆を通して～」**

12月5日(土)午後1時半から（開場午後0時から）

摂津市民文化ホール（くすのきホール）

講師 元フリーアナウンサー・道志真弓さん

内容 重度障がいを抱えた長女（享年8歳）との歩みを通して、命の重さや感謝の心、生きることの素晴らしさを伝える講演

定員 200人（要予約・先着）

申込み 人権女性政策課 ☎06(6383)1324  
 ・市ホームページ（右記QRコードから受付）

※一時保育あり（1歳以上の未就学児・11月30日(月)までに要予約・先着）※手話通訳あり

※参加者には後日はがきを送付しますので、当日お持ちください。

問合せ 人権女性政策課へ

入場無料  
一時保育あり



△道志真弓さん

**もくじ**

- 4～5…………… 知っていますか？青少年指導員
- 6～7…………… DV や子どもへの虐待のない社会を目指して
- 8～9…………… 緊急企画 フォトラリー～摂津の魅力を見つける旅に出よう～
- 10～12…………… コロナ禍における新しい健康づくり・介護様式
- 13～30…………… 
 

■ お知らせ／募集 (13～16)	■ 相談 (17)	■ 健康 (18～19)
■ 公民館・コミセン (20)	■ スポーツ・文化 (21)	■ 図書館 (22)
■ 児童センター、男女共同参画センター、教育、その他 (23)	■ 産業振興 (25)	■ 子育て (26～27)
■ 福祉 (24)	■ 地域／市民活動 (28～29)	■ ごみ・資源 (30)

※表紙の写真は、「せっつ動画 de 健康フェス！」の動画を見ながら体操をする様子

**若い力で地域防災力の向上を**

**消防団辞令交付式  
初の高校生団員誕生**

10月11日、消防本部で消防団辞令交付式が行われ、市内では初めて現役高校生の消防団員が誕生しました。  
 市は、消防本部などと連携し、火災から地域住民を守り、災害による被害を軽減することを目的に消防団を設置しています。消防団は、烏飼・味生・味舌・千里丘の4地域に分かれており、地域で火災が発生した際など



△初の高校生団員となった檜龍聖さん（写真右）

に活動します。会社員や自営業の人がほとんどですが、18歳になれば年齢に関する任命基準を満たすため、高校生や大学生などの若い力も大いに期待されています。

**スポーツの活性を目指して**

**新味舌体育館（仮称）  
建設スタート**



△イメージ図

11月から、旧味舌小学校跡地（正雀一丁目）で体育館の建設がスタートします。  
 本体育館には、気軽に健康作りができる場の提供を目的に、市内初の空調設備付きアリーナのほか、最新機器を備えたトレーニングルーム、気温・天候に左右されずジョギングができる屋内ランニングトラックが整備される予定です。

また、災害時の避難所としての利用を想定しています。  
 建築工事は、令和4年3月まで行われ、同年4月から利用開始を予定しています。

**コロナ禍での避難所設営訓練**

**ダンボールベッドやパーテーションを組み立て  
感染症対策を想定した避難所設営訓練を実施**



△完成したダンボールベッド



9月29日、市はコロナ禍における避難所設営訓練を子育て支援センター遊戯室（旧三宅小学校体育館）で実施しました。訓練には、避難所運営担当職員や防災サポーターなど73人の他、国土交通省近畿地方整備局や大阪府危機管理室、民間企業や防災の専門家が参加し、パーテーションやダンボールベッドの設置、移動式トイレの解説が行われました。

最初に、避難者が訪れた時の検温や受付方法を確認し、体調不良の人を別室に誘導。その後、パーテーションやダンボールベッドの設置方法を学びました。また、ダンボール製のパーティションは、鉄製のパイプに布を被せるものと、ダンボール製の簡易のものを、1辺2m四方になるように組み立てました。ダンボールベッドは、約40cm四方の箱を12個使用したもので、実際に組み立て、感染症対策を考慮した避難生活を体験しました。

最後に、訓練に参加した東京大学大学院松尾客員教授と日本赤十字北海道看護大学根本教授から、避難所生活における注意点や避難方法などの講評がありました。それを踏まえ、森山一正市長は「今回の様な訓練を重ね、分散避難のあり方を市民に示したい」と挨拶し、訓練を締めくくりました。

市は、今回の訓練で明らかになった課題をもとに、避難所運営マニュアルの更新に繋げることを目指しています。